1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】　平成　28　年度

事業所番号	2774001461
法人名	社会福祉法人　柳生会
事業所名	グループホームユーフォリア豊中
所在地	豊中市勝部1－12－21
自己評価作成日	平成　28年　10月　1日
評価結果市町村受理日	平成　28年　12月　9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2774001461-00&PrefCd=27&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1－54　大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成　28年　10月　28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

5名定員の少人数のユニットですが特別養護老人ホームの2階部分に併設されているという利点を生かし、レクレーションやクラブ活動を特別養護老人ホーム入居者と共に行ったり交流する機会を作り、大人数で過ごす時間も作っています。ロビーやホール、食堂や大浴場も必要に応じて共有できる環境です。通常グループホームには管理栄養士が配置されていませんが、特別養護老人ホームに管理栄養士が配置されており、栄養等バランスを計算した食事を提供させていただいています。また地域のスーパーに自分達で買い物に行き、その食材を使った自分達での調理にもグループホーム内のキッチンを利用して取り組む機会も設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームが広まる初期から、家庭的な雰囲気を大切にしたいとの思いで特養に併設した5名定員のホームです。少人数であるがゆえの運営面の厳しさから、一時閉鎖していましたが、地域の希望もあり、2年前から再開しました。代表は、ホームの生活はストレスがあるとの前提に立ち、自由な暮らしを大切にしたいとの思いで理念を掲げています。一人ひとりの状況に応じた「痒い所に手が届く」ようなケアを目指し、職員の品質や創造性が育つよう研修にも力を入れています。特養併設という環境のメリットを最大限に活かし、利用者が楽しめる活動や人々との交流を大切にしています。また、ガラス張りの外観、リビングからの眺めなど開放感のある空間を提供しています。上司・職員同士の風とおしが良く、皆で相談しながら利用者主体のケアを提供しています。職員は、できるだけその人ができるところを引き出すように、自己選択できるような言葉かけや利用者が主人公になれるような場面作りに努めています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		〇	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	〇	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	〇	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		〇	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		〇	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		〇	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		〇	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		〇	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		〇	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームだけに特化した事業所理念は作っていない。	法人の理念「日常生活において理不尽な規制によりストレスを誘発するシステムを排除し、利用者の自由意思の尊重と自立を支援する」を掲げています。施設での生活はストレスが出てくるもので、それを排除した自由な暮らしを支えたいとの意図があります。グループホーム独自の理念は作成していませんが、これらの思いをもとに、今後検討する予定です。	
2	2	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は地域の敬老会や花見の会に参加して地元の人々と交流を図っている。買い物も週に2回地域のスーパーにて行っている。	利用者全員で週2回近隣のスーパーに買い物に出かけており、地域の人たちと日常的に繋がりを持ち生活しています。また、小学校で開催された敬老会、納涼祭、お花見など地域の行事にも参加しています。特別養護老人ホームに併設されていることから、特養の入居者やボランティアの人とも、交流を図る機会があります。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し発信はしているが不十分である。今後も自治会や民生委員等と話し合いを持ち、地域の高齢者の方々の為に役立てる情報を共有していきたい。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に開催。会議ではホームの活動状況、利用者の生活ぶり等を報告し地域との交流の深め方や地域から施設に対しての提案や要望について話し合い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2ヵ月に1回定例で開催しています。会議は、利用者、家族、地域包括支援センター職員、地区民生委員、地区福祉委員、併設施設の施設長、職員などで構成されています。会議では、利用者の状況や行事、外出などの活動報告を行っています。職員は、さらに運営推進会議が地域の人たちとの交流の場になるように、工夫をしたいと考えています。毎回の会議の案内や報告を欠かさず行っています。また、市内のグループホームで実施された合同の運営推進会議にも参加しました。	
5	4	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あくまでも運営推進会議におけるコンタクトのみである。	事業所連絡会や市の主催する研修会に、参加しています。事故が発生した場合には、必要に応じて速やかに届け出をしています。市消防署の実施する救命救急の講座を受け、救命サポーターステーションとして、玄関先にシールを貼付し周知を図っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束をしないケアに取り組み、個々に対し、カンファレンス等を通して常に考え、それを踏まえて介護を実践している。	グループホームは、特養2階の一角にあり、旧玄関は現在使用しておらず、施錠しています。特養の廊下に繋がった入り口からは、自由に出入りができます。特養と共用のエレベーターは、ナンバーロック式になっており、以前は番号を押し、自由に出入りしている人もいました。特養と合同で、身体拘束廃止に関する研修会を開催しています。特に、スピーチロック（言葉による拘束）や言葉遣いに気を付けるように意識しています。できるだけ自己選択できるよう働きかけています。	
7		**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修にも積極的に参加している。併設する特養で虐待防止委員会を作り、研修を通して虐待防止について学ぶ機会を設け、皆でお互いに注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は十分理解し活用も行っているが、職員の理解はまだ不十分である。今後に備え、理解を深めて行きたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		**○契約に関する説明と納得** 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはすべての書類を読み上げ、都度説明を行っている。また要望などを聞き、不安を解消し、理解や納得してもらえるように努めている。		
10	6	**○運営に関する利用者、家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、ケアプラン作成時など定期的に話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。また随時アンケートを実施し、家族の意見が表せる機会を設けている。	特養と一緒に2ヵ月に1回広報誌「キャッチボール」を発行し、行事での様子を写真にとり、家族に伝えています。家族の来訪時には、職員から声をかけ、意見や要望が出るよう努めています。勤務の体系上、毎日同じ職員の対応が難しい場合もあり、電話等で連絡を取るようにしています。アンケートも実施し、できるだけ利用者や家族の思いをくみ取り、職員間で解決に向けて話し合っています。	
11	7	**○運営に関する職員意見の反映** 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば随時ではあるが聞く体制はとっている。	管理者は、会議などを通じて、職員の要望や意見を聞く機会を設けています。創造性をもって仕事をしてほしいとの思いがあり、外出やレクリエーションなどの企画も強制することなく、自由に取り組める体制を整えています。また、特養との合同での教育体制も充実しており、職員のモチベーション維持に繋がっています。異動も、可能な範囲で希望に応じるようにしています。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		**○就業環境の整備** 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は業界最高水準である。		
13		**○職員を育てる取り組み** 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア等の研修だけでなく、事業に関わる様々な研修を受けられる機会を法人内外で確保している。外部研修に関しては出張扱いとなるものも多く、積極的に受講しやすい体制を整えている。		
14		**○同業者との交流を通じた向上** 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所職員との交流は図れていないが、ネットワークづくりの目的も兼ねて、各種の勉強会や討論会に参加することで情報交換や交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		**○初期に築く本人との信頼関係** サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入居申し込みの際にご本人が来所されたらじっくりと話を聴き、少しでも不安を取り除き、安心して頂くことができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		**〇初期に築く家族等との信頼関係** サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方々が話をしやすい雰囲気づくりをし、これまでの苦労話や心の葛藤をよく聴き、受け止める関係を築いている。		
17		**〇初期対応の見極めと支援** サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の情報収集においてニーズを把握することで必要なサービスについての説明を行い、サービス提供している。		
18		**〇本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個別性に目を向け、生活空間で共に過ごし、家事などを一緒に行いながら趣味のこと家族のこと等気楽に話せる関係性を築いている。		
19		**〇本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも訪問したり、問い合わせしやすい雰囲気づくりを心掛けている。良いことだけではなく、悪いこと（内容）も共有し、一緒に利用者を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーへ週に2回買い物に行っている。眼鏡を新たに作る際も以前にも利用しデーターのある地元の眼鏡屋を利用した。	週２回の近隣スーパーへの買物や行事、散歩の際、知人に出会うことがあります。利用者によっては、近隣の人に会いたくないとの思いを持っている人もおり、一人ひとりに応じた対応をしています。職員は、今までの関係が継続するよう、手紙や電話の支援もしています。また、併設特養の利用者と習字のサークルなどを通じて、新たな関係ができるように働きかけています。	
21		**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を把握し、職員が間に入る事で孤立しないよう、また、気付かないところでのトラブルなく安心して過ごして頂くけるよう、関係性の変化等を把握するように努めている。		
22		**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設特養へ入所される方が多く特養との兼任職員も多数いることから関係性は継続している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者の意向に沿った生活が送れるように支援する。意向を示すことが難しくなった際はこれまでの暮らしから本人が望まれるであろう生活を検討している。	どこでどのように暮らしたいか、自ら意思表示する利用者は少なくなりました。その中でも、できるだけ自分で選択できるよう、意図的に言葉を投げかけ、思いや暮らしの希望を聴取しケースファイルにまとめています。日常の会話や表情の中から、利用者の思いを把握できるように努めています。	
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者本人や家族から得た生活歴やなじみの暮らしなど、色々な側面からの情報を把握するように努めている。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録は詳細に残すようにし、日々の些細な変化に気づけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	**○チームでつくる介護計画とモニタリング** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、及び職員で意見やアイデアを出し合い、栄養士や看護師の意見も取り入れ、そこに家族の要望も取り入れてケアプランへと繋げている。	計画作成担当者を中心に、家族、利用者の思いなどの情報を整理したうえで、介護計画を作成しています。計画は、具体的な行動で記されており、だれが見ても分かるように整理されています。介護計画の見直しは、家族と合同のカンファレンスが難しい場合もありますが、事前に意見や要望を確認し、会議で話し合い、毎月のモニタリングと合わせて整理しています。日々の記録は、パソコンで入力し情報を共有しています。	
27		**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を詳しくケース記録に残すことで職員間で情報を共有でき、介護計画の見直し時にも有効な資料となっている。		
28		**○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化** 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養のサービス、地域サービスもニーズにより利用できる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方からの情報を得て、近隣の催し物に参加させてもらっている。地域に出ることで馴染みの方との再会もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医を受診している。	利用者の日常の健康管理は併設特養の診療所の看護師が行い、状態に変化があれば診療所の医師の診察を受け、必要な指示を受けています。夜間や緊急時にも看護師に連絡できるオンコール体制ができています。歯科などへの受診も必要があれば随時支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師と連携し適切な看護、受診につなげている。連絡をすればすぐに看護師が来られる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時だけではなく入院中の様子も知るため、相談員や医師と情報を密にとっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	**○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援** 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期となった場合の対応、事業所で何がどこまでできるかを説明する。直近重度化した事例がないが、家族、主治医と事業所全体が相談、納得してチームで取り組む。	入居の際に、重度化した場合の医療的なケアについて、家族の意向を聞き取っています。ホームでは「看取りケア指針」や「看取りケア体制」について文書を作成していますが、現在看取りの支援は行っていません。	
34		**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え救急救命法の習得、事業所内での事故対応についての全体研修やカンファレンスを定期的に行い、実践に活かせるようにしている。		
35	13	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に実施できているが、地域との協力体制は築けていない。	年に2回併設の特養と合同での避難訓練を実施しています。火災や水害及び地震などの災害対策として「防災対策手順書」を作成して職員に周知しています。非常災害時の食料などの備蓄については、現在特養と合同で管理していますが、飲料水と食料の一部はホーム内に保管、管理を行う予定です。	

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	**○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保** 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心して生活して頂くために、その人その人の人格を尊重し、納得して応じてもらえるように声掛けや対応に配慮している。	毎年、定期的に「人権尊重」についての研修会を行っています。利用者への声かけには、指示的な言葉ではなく、なぜ、そうするのか丁寧に説明し、自己選択できるような言葉かけを心がけています。	
37		**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な事でも自己決定される選択肢を用意した提案をすることで自己選択できる機会を増やしている。		
38		**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいかを御自身で決められる方が減りつつあるが、これまでのケース記録等から本人の反応が良かったもの、好まれるであろう生活を見立て支援している。		
39		**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を月に2回設け、身だしなみやおしゃれの支援に努めている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分たちでの小鉢への盛り付けに加え、配下膳もできる範囲みんなで分担して取り組んでいる。週に2回は昼食を作るところから一緒に取り組む機会がある。	食事は併設の特養で調理されたものが届けられ、ホームで盛り付け、配膳、後片付けなど、利用者それぞれができることを行っています。週に2回は自分たちで献立を決めて、食材の買い物から下ごしらえ、調理、盛り付けなどを全員で行っています。お寿司、オムライス、お好み焼きなどが好評です。食の楽しみの支援として、カニ料理や回転すし、大型スーパーのフードコートへも食事に出かけています。	特養内併設のホームで、昼食はホームで、夕食は特養の利用者と一緒に特養の食堂で摂っており、職員が利用者と一緒に食事をすることが難しい状況です。週に 2 回はホームとして、利用者と職員が一緒に献立から買い物、調理まで行っているので、この時に同じものを職員も一緒に食べ、より楽しい食事の雰囲気づくりを検討されてはいかがでしょうか。
41		**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスを考えたメニューの提供、食事の摂取量、水分摂取量を正しく把握し、パターン化した提供以外にも適宜補えるよう支援している。		
42		**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着中の利用者は1日に1回洗浄剤に浸している。食後の歯磨きも個々の磨き方を確認、不十分な点は介助で補っている。口腔状態によっては歯科衛生士による口腔ケアを実施する。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	16	**○排泄の自立支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意があいまいになった方にも個々のパターンに合わせ早めに声かけをする。トイレでの排泄を勧め、パット類の使用量の削減に努め、個々の排泄パターンや状況を日常的に職員が報告しあっている。	利用者の排泄リズムを把握しており、トイレ誘導しています。ユニット内には、家庭用のトイレが2か所ありますが、車いす利用となった場合は、併設特養のトイレを利用し安全で快適に排泄できる環境が整っています。介護計画にも利用者の生活を中心に考えて、便秘への対応や夜間の安眠を優先にしたおむつの選択など対応方法を記し、情報共有しています。	
44		**○便秘の予防と対応** 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防になるようなメニューや食材を工夫し、水分補給をこまめに行うよう意識している。午前のコーヒータイムにはオリゴ糖を用い体内環境を整える取り組みをしている。		
45	17	**○入浴を楽しむことができる支援** 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	下肢機能の問題で一般浴が難しくなった方は併設する特養の大浴場でリフト等を利用しゆっくり安全に入浴して頂く。希望があれば散歩等から戻り、汗を流すタイミングで入浴できる体制もとっている。	利用者は、平均週2回入浴をしていますが、希望があればシャワー浴や毎日の入浴も可能です。ホームは家庭浴槽ですが、併設特養の浴室も利用できます。車いす利用の方や、広々とした浴室でゆっくり入浴することを好まれる方は、希望により特養の浴室を利用しています。好みのシャンプーなどそれまでの入浴習慣を大切にしながら支援しています。	

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
46		**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子を観察し、日中にお昼寝する機会も設ける。夜間の入眠も一律には行わず、早めに横になる方、寝つけずテレビをつけておられる方等その人のペースを尊重する。		
47		**○服薬支援** 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。下剤等服用による症状変化のあるものは記録を詳細に残す。		
48		**○役割、楽しみごとの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字・カラオケ・手芸・生け花等を取り入れ、得意な事、お好きなことに関わる機会を設けている。		
49	18	**○日常的な外出支援** 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら外出の希望をされる方が減っているが、外出や外食を提案し、お誘いする事でみんなで出かける機会がある。個別に買い物や外出の希望があれば出かけられる体制を作る。	できるだけ外出の機会を作るよう、週2回の食材やおやつなどの買い物には全員で出かけています。外出が困難なときは併設する特養の屋上や玄関先のエントランスに出て、外気浴を楽しむことができます。入居者の状態から、以前日課にしていた近隣の緑地帯への散歩は難しくなりましたが、桜やバラ園、コスモス、喫茶店や外食など、行事も取り入れて、外に出る機会を作っています。	

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際等の支払いの場面では、お金の所持や支払い手順等に理解のある方には見守りのもと行っていただく。		
51		**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	併設する特養の1階ロビーに公衆電話があり、希望があれば利用できる。手紙のやり取りのためにハガキや便せんの購入希望、ポストへの投函依頼があり、そのつど対応している。		
52	19	**○居心地のよい共有空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には習字や貼り絵、思い出の写真等を飾り、生活の場らしい雰囲気を作っている。気候が良ければ窓も開放し、自然の風も取り込んでいる。	特養２階の一角がグループホームです。食堂兼リビングの一面はガラス窓で、窓側にベンチがあり、玄関先の紅葉した樹木や、道行く人々、車の流れ、近隣の工場など眺めることができ、明るく開放的な空間となっています。台所には冷蔵庫、食器棚がおいてあり、週 2 回は調理をしています。壁面には、作品を貼り、視覚的にも楽しめるようになっています。利用者の状態から、雑誌やレクリエーションの道具など目につくところにおいてはいませんが、以前は自由に手に触れられるようにしていました。今後も様々な工夫をしていく予定です。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ﾘﾋﾞﾝｸﾞにL字型のコーナーソファーを配置し、食卓だけでなくソファーでも団らんしてもらえるように努めている。		
54	20	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には精神的な安定と混乱を避ける目的でこれまでの生活で思い入れのある家具や品を持ちこんで頂くよう提案する。家具の配置、写真等の持ち込み、掲示等も基本的に自由となっている。	居室には、木製のタンスと机、電動ベッド、洗面台が設置してあります。居室には、利用者の希望に応じて、危険物以外は自由に持ち込むことができます。室内には、テレビやタンス、ハンガーラックなど自宅で使い慣れたものを持ち込んでいます。また、家族の写真、小物類や作品などを居室に飾っています。	
55		**○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり** 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	作り込んだ特殊な環境ではなく、場所の表示、誘導の表示等自然な形で安全に生活できるような工夫を行っている。		